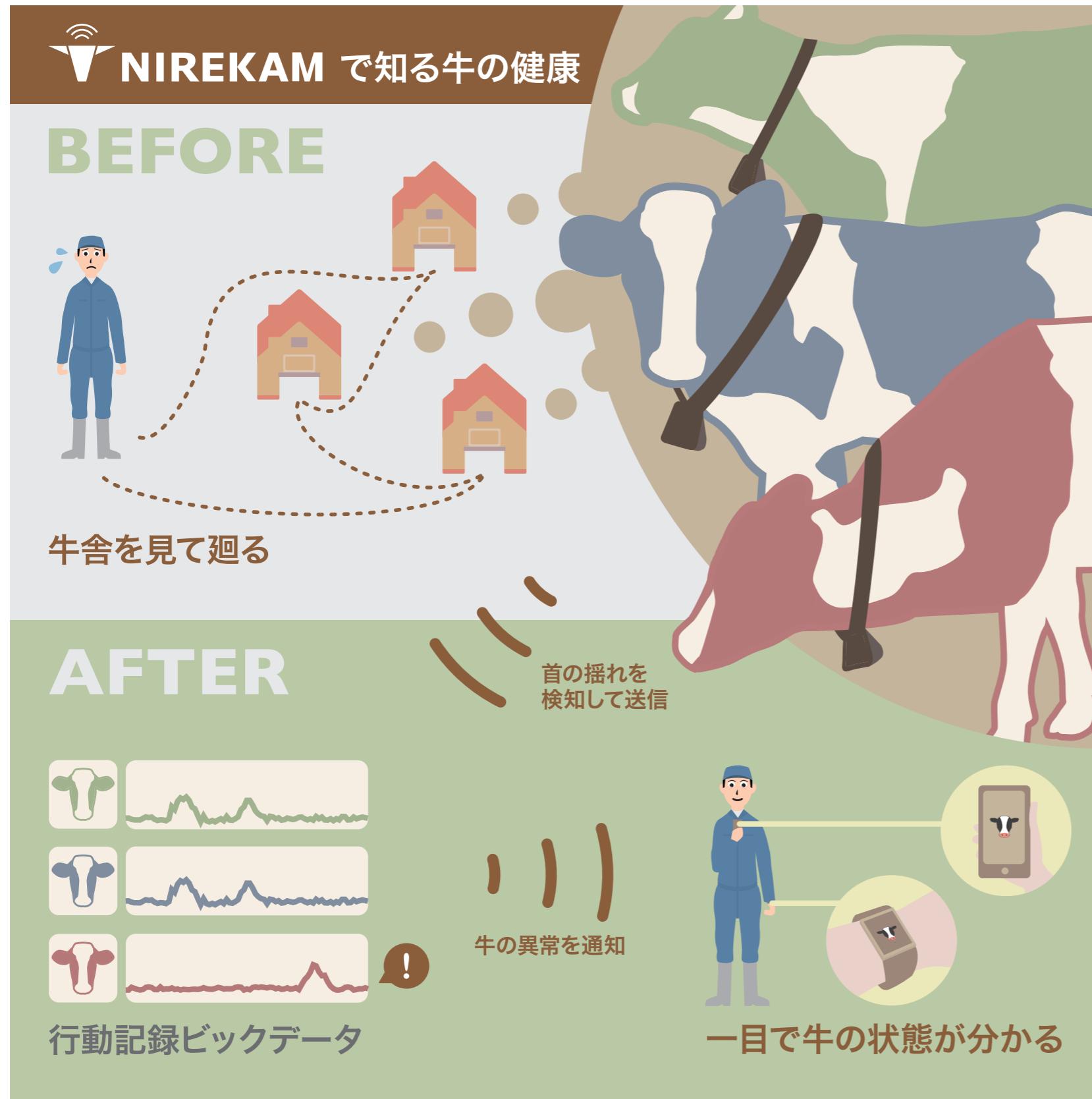


# ウェアラブル端末を乳牛に装着し状態を把握するシステム 「NIREKAM」のインフォグラフィクス

7人グループ（インフォグラフィクスは2人）  
制作期間 2015/8 - 2015/10  
自分の担当 インフォグラフィクス、ディレクション



## 「BEFORE」と「AFTER」で NIREKAM 導入前後を一目で分かってもらう

BEFOREでは、酪農参加者が一軒一軒の牛舎を周り、さらに一頭ごとに牛の様子を見て廻ることが大変であることを変わるようにした。AFTERでは一転、スマートフォンやスマートウォッチに牛の異常について通知がくることで酪農家さんの負担が減ることをわかるようにした。

## Zの法則と彩度を意識した配色をし、 左上から右下への視線誘導を

見る人の視線の流れが「Z」の文字のように流れていく法則を活用した。左上のタイトルの背景色を強くすることで読み始める時、最初に目がいくように意識した。さらに電波を矢印代わりに利用し、目線の誘導に使った。

## 牛を大きくすることで 一目で牛についてのことだとわかつてもらう

一番大きく牛のグラフィックを用いることでパッと見た時に牛についてのことなのだとわかるようデザインした。さらにナチュラルな意欲を意識しながらも牛を3色にすることで「行動記録ビックデータ」上の3色の牛がそれぞれどの牛を指しているかを明示的にした。



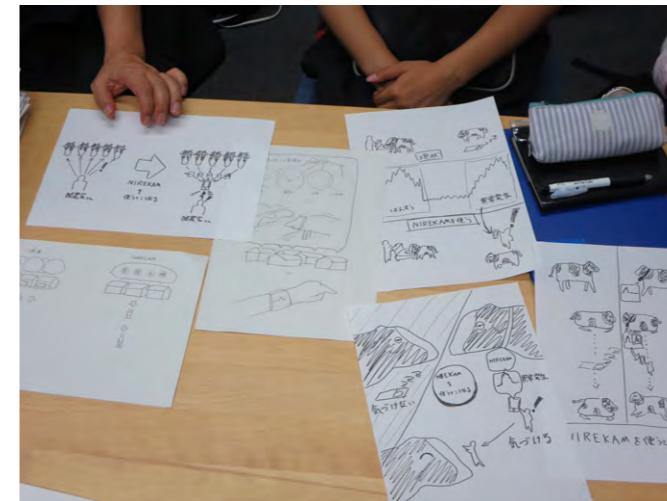
## 牧場に牛の見学へ 酪農家さんにヒアリング

函館市内の牧場を訪れ乳牛の様子を観察した。予想以上に顔が大きく迫力があった。その後酪農家さんに1日の乳牛と酪農家さんの動きをヒアリングした。



## 図書館に行きメンバーの イメージを擦り合せる

NIREKAM のイメージを擦り合せるため図書館に行き個人個人のイメージに近い本のページを開き構造化した。そこから「ナチュラルポップ」にイメージを合わせることにした。



## インフォグラフィックスラフ案を 提示、方向性を決める

インフォグラフィックスのラフ案をクライアントと先生に提示し、NIREKAM を使う前後でどう変わるかを表現することになった。



## データ化した案を提案 ブラッシュアップへ

方向性が決まった案をデータ化しクライアントに提案した。ここからブラッシュアップを重ね最終案まで制作することになった。